

53.

實踐問題取調始末書

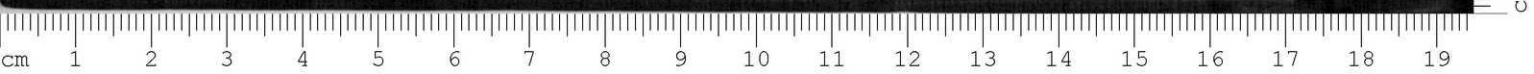
本科三年生

田村信生

奈良良直



明治三十四年



調達万法不空全

明治三十四年五月

本科第三年

田村信生
奈良重美



實踐問題取調始末書

昭和三十年三月十八日
學生課 ヨリ寄贈

高等商業學校

實踐問題取調始末書

生等客年九月実践調査問題ヲ課セラル。マ直ニ之カ取調ニ着手セントセシカ事故アリテ空シク経過スルヲ教日引續キ受持教授閣下ノ欽勤ノ爲向題ノ要領及ヒ範圍ノ存スル所ヲ明カニスルヲ得ス。シテ在萬日ヲ推移セリ其後幸ニシテ教授閣下ニ謁談ノ機ヲ得茲ニ初メテ調査ニ着手スルヲ得タリ。爾來生等常ニ愼同事ニ當リ不勘ノ時日勞カク消費シタリシモ其得ル所ハ僅カニ半紙一葉ノ字數ニ値セス。是レ固ヨリ生等不敏ノ致ス所アリト雖モ亦事情ノ止ムヲ得サルモノアリ。因テ左ニ連署シテ其調査ニ得タル分ヲ記シ併テ調査ノ顛末ヲ報シ以テ生等カ不成巧ノ責ニ答ヘ

問題

左ノ貨物ニ就テ最近數年間ニ於ケル運賃ノ高低表ヲ作成スベシ

但シ所謂船腹借切トシテ積込ハキ場合ト積合セノ場合トラ区別スベシ

一 茶 横濱 神戸ヨリ改州及紐育間

(米国西海岸諸港經由 蘇士經由)

一 生絲 同上

一 米 本邦ニ於ケル産地ト実践科内倣設ノ本邦各需要地間

本邦ヨリ改州間

西貢ヨリ本邦間

一、海産物

東京ヨリ輸出スル海産物ノ主ナルモノヲ云フモノニシテ
東京或ハ横濱ヨリ上海ニ至ル航路ニ於ケル運賃
割合

一、肥料

人造肥料、海産肥料、及陸産肥料ヲ云ヒ東京横
濱ヨリ各需要地ニ至ル運賃割合

一、砂糖

香港ヨリ東京横濱間及ヒ東京ヨリ各需要地ニ至
ル運賃割合

十月十七日

日本郵船會社ニ赴キ刺ラ投シ紹介状ヲ示シ社員某ニ會
シテ来意ヲ告クハ社員ハ語ルニ本社ニ於テハ輸出入ニ関シ直
接ノ取扱ヲナス由テ輸出ニ就テハ四日市河岸支店ニ於テ調査
スルノ便アルヲ以ラセリ故ニ當日其任退去セリ

八月十八日

本社々員ノ言ニ從ヒ四日市河岸支店ニ赴キ應接室ニ於テ待
テ多時漸クミレテ蒼面ノ一紳士出テ来意ヲ問フ因テ調査
ノ要項ヲ示シ之カ参考ニ必要ナル書類ノ函覽及ヒ説明ヲ
請ヒタレ元来運賃ノ高低ニ関シテ特別ノ書類アルニ蓋シ
會社ノ運賃率ハ數年ヲ通シテ一變セハモナレトモ土地貨主
貨物ノ種類市場ノ景況等ノ如何ニ因リテ絶ヘス高低スル
ルヲ免レス而カモ其昂低ノ率ニ至テハ別ニ之カ記録ノ存スル
ナレ若シ強テ之ヲ求メント欲ヒハ會社數十種ノ帳簿ヨリ蒐
集シ得ラレサルニ決レトス如キハ實際ニ於テナレ能ハサル処ニ
テ社務繁忙ノ際遺憾ナカラテ請求ニ應フルヲ得ス尚ホ帳
簿ノ如キハ素ト會社營業上ノ秘密ニ屬シ是レ亦生等ノ閱覽
ニ供シ難シトテ夫ヨリ運賃昂低ノ原因ヲ極テ燭為ニ説キ去
リテ茲ニ語ヲ止メ先ッ自ラ立テハ生等ニ退去シ後セルモノ

室蘭	釧路	根室	樽	能登	土	舟	酒田	新浮	直江津	福島	外	福山	寿都	船	山石	江差	加浦
六〇	五〇	一〇〇	五五	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	七〇	七〇	八一	八一	八一	八二	七五	
五〇	四〇	九〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	六三	六三	七三	七三	七三	六八		
四〇	三六	七〇	三六	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四六	四六	五三	五三	五三	五〇		
五〇	五〇	八〇	五〇							六〇	六〇	七〇	七〇	七〇	七〇		
四五	四五	七五	四五							五〇	五〇	六五	六五	六五	六〇		
二七	二七	七〇	二七							三八	三八	四五	四五	四五	四〇		
			四五														
			五〇														
			三三														

八 十九日

深川荷捌所ニ至リタルモ時恰モ事務輻湊ノ為引見セ
ラレズ更ニ雨天ノ日ノ撥ラ来ルハキ旨ヲ告ケラレテ得ル所ナク
ニテ来帰ス

八 二十日

夜来降雨乘リタルカ恰モヨシ當日ハ入リテ漸ク大雨トナリシ
カハ生等ハ之ヲ好持トシテ深川荷捌所へ赴ケリ到ルハ雨天
ノ貨物陸揚ノ為事務稍々周散ナリトテ直ニ所長ニ引見セ
タレ奉ノ餐應ヲ受クル等當日ノ待遇ハ前日四日市河岸
ニ於テ教時手ヲ空ラセシ時ニ比シテ甚ク豊ヒリ然レモ運賃ニ
關スル説明ハ前日ニ比シテ一層要領ヲ得ス書類ノ閲覧モ
容易ニ許可セサリシカ生等ノ懇望多時ナルニ由リ漸ク各地
ヨリ送附シ来ル Manifest (明治三十三年分)ノ閲覧ノ許
サレタレハ一々之ヲ點檢シテ捨集セシモノハ尤ノ表ナリサレモ固
リ以航ニ関スルモノニシテ外航ニ就テハ更ニ得ル所ナシ

塩谷	酒田	土崎	仁川	佐渡	三角	阪岁	本庄	高知	長崎	下関	大坂川口	門司
三二												
三七												
二七									六二			
三二	九〇	五五										
	九〇							六三	五七			六五
	四六	五五	一〇〇		六〇	五〇	六三	五四	六〇		六〇	六〇
					六五	四三	五〇	五四	六〇	五五	四〇	五五
								六〇	六〇	六〇	四〇	六〇
					六五							六〇
						五五						
二六	一〇〇											

新函	小樽	石巻	岩瀨	
九七	三二	五五		一月
	三二			二月
	三二			三月
	三二			四月
				五月
五〇	三二			六月
				七月
	五〇	二六		八月
				九月
		三三		十月
				十一月
				十二月
		二六		

海産物及肥料(各地より東京迄)

北廻り船

函館
荻原
新浮
石巻
小樽
根室
福山

三月九日
三月十九日
三月二十九日
三月九日
三月十九日
三月二十九日
三月九日
三月十九日
三月二十九日

締箱
高
三七
三六
三五

昆布
金
五
五

糠
四〇
四〇

三〇
五五
五五
五五
五五
五五
五五
五五
五五
五五
五五
五五
五五

人造肥料	糖		西廻り船
	高	低	
一箇月 〇九	三三 八四	三三 八四	神戸
	三三 八四	三三 八四	大坂
〇九	三三 三三	三三 三三	限
	三三 三三	三三 三三	名古屋
土四	三三 三三	三三 三三	四日市
	三三 三三	三三 三三	伏水
	三三 三三	三三 三三	塩津

八 二十七日、前日、約々履テ四日市河岸支店、至ル幸、外航係土佐
 氏、會見ス、得將、談話向カレントセシ氏、恰々緊急事件
 差起リタリシ有直、室外、出ラシ、数リシ経テ来リシモ再ヒ要
 務生シ此、如キモノ再三、及ヒ生等、其繁忙ト察シ、カハ自ラ
 書類ヲ閲覧セン、請求シ事務ヲ妨害セサントセシニ、氏ハ
 局外者ト生等、仮令書類ノ閲覧ノヲレヲソトテ到底解
 シ難カルヘケルハ、調査問題ヲ残シ、ナリ、佐日調査記入、上氏
 等ノ送附シ待ツヘントラ止マカリ、カハ生等、頗々其成否ヲ疑ヒ
 タレ、他ニ由バ、キ手段ノキ、以テ遂ニ其言ニ従ヒタリ、
 土月五日、四日市河岸支店土佐氏ヨリ、尾ノ端書ヲ受ク

友記再おは末湯を、其共末色
 ヲ満々然りス。吾等老誠者、其等は約
 束、件々當座に於て公ル。其に大し弊
 社に存在。皆拍浮加筋力大なり。其
 等予洗明依頼を、其便宜に協同
 先、此迄了と。子と打

十月四日
 友記郵船株式会社 支店 支店長

六日 土佐氏より、端書、基、八重洲町郵船会社、加福力太郎
 氏に訪、不幸ニシテ同氏、数日以前より病氣ヲ致勤セリト
 ラ爲、本意ヲ達スル能ハス。

八日 再ニ加福氏ヲ訪、尚ホ引續致勤、爲、歸未
 九日 同前

十三日 同シク加福氏致勤、爲、門前拂、厄ニ遭遇セントシタリ。此カ時ニ
 シ遷延スル、斯、如クハ到底調査成就、期ナカシ、ト思、具
 サシ生等、未意ヲ告、南局表、面謁セ、トテ請ヒ、ニサバトテ應
 接所、導カレ、暫時、シラ出来、ルハ、当社内航係岩井某ナリ由テ
 調査事項、之運賃ニ関スル、爾来、經過及ヒ土佐氏ヨリ加福
 氏ニ依頼セ、件ニ就キ、詳細陳述セ、シ、氏、先ツ運賃ニ関スル
 簡易ニ説明ヲ儀式的ニ述、テ、二三、尚ホ語り、継テ、本社、於テハ
 到底之ヲ調査ス、トテ得、ス、因テ、生等、要スル場所、應、シテ運
 賃、記入用紙ヲ、調製、シテ持来、セ、ハ、本社、之ヲ各支店、送附、シ
 テ、調査、記入、ノ、命、ヲ、然ラ、進、ク、モ、ニ、月、ヲ、出、テ、ス、シ、テ、生等、返附
 セ、テ、余、確カニ保証スル、処、ナ、ト、既ニ、支店、支店、是、ク、運、ブ、テ、敷
 用、而、モ、未、タ、一、片、ノ、材、料、タ、得、カ、レ、除、テ、同、氏、ハ、一、言、ハ、笑、シ、生等
 積、リ、重、荷、ヲ、卸、セ、ル、感、ヲ、タ、シ、ハ、前後、思、慮、ヲ、假、ス、ノ、違、ナ、ク、直、ニ

本信木
生車自
美自
殿

本
高
山
寺
五
廿
五
科
三
月
廿
五
日
外



六日、土佐氏ヨリ、端書、基キハ重洲郵船会社、加福力太郎
氏ノ訪フ不幸ニシテ同氏、数日以前ヨリ病氣ヲ致勤セリト
ラ爲、本意ト違スル能ス。

八日、再々加福氏ヲ訪フ尚ホ引續致勤、爲歸来。

九日、同前。

八日、同シク加福氏致勤ノ爲門前拂、厄ニ遭遇セントタリヨカ時ニ
シ遷延スルヲ斯、如クハ到底調査成就ノ期ナカシテ悲レ具
サニ生等、未意ヲ告テ、當局表、面謁セリテ請ヒシカバテ應
接所、導カレ暫時、シラ出来ルハ、当社内航係岩井某ナリ由テ
調査事項ヲ運賃ニ関スル再々、經過及ヒ土佐氏ヨリ加福
氏ノ依頼セシ件ニ就キ詳細陳述セシニ、氏、先ツ通達ニ関スル
簡易ニ説明ヲ儀式的ニ述テ二三、尚ホ語り継テ本社ニ於テハ
到底之ヲ調査スルヲ得ス因テ生等、要スル場所ニ應ヒテ運
賃記入用紙ヲ調製シテ持来セハ、本社ニ之ヲ各支店ニ送附シ
テ調査記入ノ命ヲ下シ然ラハ、遲クモニヶ月ヲ出テ生等ニ返附
センコト余、確カニ保証スル処ナリト既ニ支店支店ニ定テ通テテ敷
用而ケモ未タ一片ノ材料タニ得カニ際シテ同氏ノ一言ハ、実ニ生等
積リ、重荷ヲ卸セルノ感ナリタレハ、前後思慮シ、假スル違ナク直ニ

之承諾)再來う約シテ去心帰途相談レ成巧ノ近ケル視ンタ
 リ然レモ喜報ノ裡又疑念次テ起リ意自ラ強カラカルモノアリキ蓋
 シ既ニ故用ノ経験ニ用リ事ノ餘ラニ易キニ見ルモノハ往々不良巧
 ニ終ルコトアルコト知ハナリ

此當時ニ受持受授圖ニ既ニ欠勤セラタリニ由リ各商品ニ就キ調
 査ノ範圍ヲ定メテシテシキトカ、如ク指導ヲ受ケタリ由テ後ニ
 掲ケタル様式ニ從ヒ各品ニ就キ支店別、セル白地表ヲ作成セリ

調査事項(明治世一年以後三ヶ年分)

一茶(積合ノ場合)

横濱一蘇經用一紐育

横濱一歐洲

横濱一桑港經用一紐育

一糸(積合ノ場合)

横濱一「マルセイユ」

横濱一桑港一紐育

一米(積合及船腹ノ場合)

新澤一東京

新澤一横濱

新澤一函館

新澤一小樽

酒田一東京

酒田一横濱

酒田一函館

酒田一小樽

石巻一東京

石巻一横濱

四ヶ市一東京

四ヶ市一横濱

門司一神戸

門司一大阪

三角一神戸

三角一大阪

日本一倫敦

西貢一日本

一雜糧 函館、小樽、根室——東京、横濱、四日市、神戸、大阪、長崎、新澤、

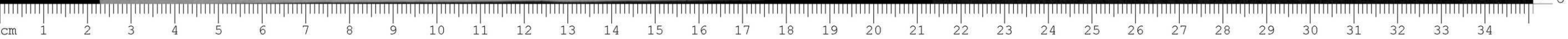
品名	自何港							
	至何港		至何港		至何港		至何港	
	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小
明治元年	一月							
	二月							
	三月							
	四月							
	五月							
	六月							
	七月							
	八月							
	九月							
	十月							
	十一月							
	十二月							
明治二年	一月							
	二月							
	三月							
	四月							
	五月							
	六月							
	七月							
	八月							
	九月							
	十月							
	十一月							
	十二月							
明治三年	一月							
	二月							
	三月							
	四月							
	五月							
	六月							
	七月							
	八月							
	九月							
	十月							
	十一月							
	十二月							

何口運賃高依表

一 昆布
 東京—函館、小樽、根室、
 横濱—函館、小樽、根室、
 神戸、大坂—函館、小樽、根室、
 神戸、大坂—上海

一 砂糖
 東京、横濱、大坂、神戸—函館、小樽、新湊、長崎

カリシト云々の定メシ内落ケ骨高カハベト豫想セシテ其恢復



八 十五日 約ニ由リ生等ノ考案ニ成ル前掲ノ運賃記入用紙ヲ携ヘテ

本社ニ至リ岩井氏ニ会シテ示セルニ氏モ容易ク之ヲ細ク書日ハ用
務多クハハトラ其儘分レ去ル

一月二十日、 郵船各支店ニ於テ記入回送 直ニ通達スベト約セル岩

井氏ヨリハ本日ニ至ルモ尚ホ何等ノ通牒ヲク疑念漸ク加リシ

シ以テ本日郵船会社ニ至リ先ツ岩井氏ノ在在ヲ偵シテ

右應接所ニ入テ待ツ 稍々久シテ取次ニ再々去来ラ日氏

ハ病氣ノ爲本日欠勤ノ由ヲ告グ 惟ニ或此返答生等ノ時

既ニ其裏面ヲ察シタリ因テ生等ニ告ルニ加福氏ニ会セテ以

テセルニ 意ハ本旨ニ容易ク出来リ先ツ未意ノ述ハ且ツ土佐

氏ヨリノ端書ヲ示シテ其委細ヲ語リ 終リテ見上ルニ顔面

肥滿微紅ヲ呈スルニ 宛然病餘ノ人トモ見エス然レ病慶烈シ

カリト云ハ定メン内落ケ骨高カハベト豫想セシ反シテ其恢復

斯ノモ迅速ナリシハ氏ノ為ニ慶賀指シ能ハナリ 語頭氏ニ先ツ
暫時ノ欲勤ヲ耐シ次ニ土佐氏ノ依頼ニ就テハ微カシク之ヲ記贈スルモ
其正確ノ想起スルヲ得サレハ二月一日ノ期ニテ再未ス(キ)テ告ク
最後ニ凡百ノ事之ヲ語スルハ容易ナシカラ実行ノ場合ニ至ラ
ハ頗ル難事タリト語り 浩^誰突ニ番館ニ生等ノ愚ク突ッテモ、如シ斯
テ生等ノ意益々平ニ能ク去ラシトセシ途端一紳士ノ生等ノ
前ニ追キテアリ共生等ト一瞥ヲ交フルヤ惶惶別房ニ入リ
於戲是レ分時ノ前病氣飲勤ナリトテ生等ノ面会ヲ耐能シ
タシ好個ノ一紳士ナリキ、萬事ノ希望茲ニ休ス。

二月一日

約ニ由リ本社ノ訪ヲ暫時ニシラ小使凡ノ放棄、紙片ト一葉ノ
名刺ト以テ来ニ取テ之ヲ檢スルハ加福氏ノ名刺ニテ其表面ニ
記スルハ山井氏方キ出未スレノ教書ヲ以テス嗚呼何ヲ其冷カ
ナル土佐氏ノ真意ニ單ニ此片紙ノ生等ニ返セト云フハ此ルヲ而カ

此紙高キ業學校生ニ在ルハ四村兩ギ宜地ニ親家
ノ方ノ再ニ出スルハ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ
如シモ其手出スル中其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ
同知リテ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ
少キ此紙(毎)年ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ
執事トシテ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ
リ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ
而シテ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ
流牛ノ由多ク其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ
其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ早ニ其志ヲ申シ

土月四

加福梅

土終

石
面
石

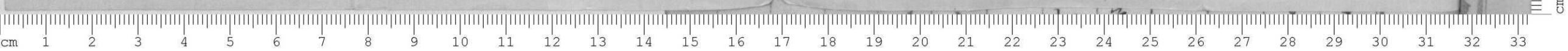
白
東
地

白
東
京

一 俵 2 斗 (和 石)

	新	大 阪	田 口 市
人 造 肥 料	世		
	世一斗	四十斗	三十斗
	世二斗	五十斗	四十斗
	世三斗	五十斗	四十斗
海 産 肥 料	世	四十八斗	四十斗
	世一斗	四十斗	三十斗
	世二斗	"	"
	世三斗	四十斗	四十斗
陸 産 肥 料	世	十 斗 出	
	世一斗		
	世二斗		
	世三斗		

		塩 屋	巴 主	小 杉	新 泻
石 造 米 糖	世	二十二斗	三十三斗	三十六斗	四十斗
	世一	"	"	"	"
	世二	"	"	"	"
	世三	二十斗	二十四斗	二十八斗	三十斗
		世			
		世一			
		世二			
		世三			



東京
各地
運貨

百石台 (四千貫)

	四口市	大阪	津	釜
年	四十二	五十五		
一年	"	"		
二年	六十四	七十四	四十四	
三年	六十四	七十五	四十四	
四年	十一	十四		
五年	"	"		
六年	七	十四		
七年	七	七		
八年	六十四	七十四		
九年	"	"		
十年	六十四	七十四		
十一年	六十四	七十四		
十二年	六十四	六十四		
十三年	"	"		
十四年	六十四	六十四		
十五年	六十四	七十四		

鮭
魚

鯉
魚

田
作

鯉
魚

入次
葉
三

五十年百位

左、貨物 = 年中最近期年間 = 控々運貨 / 割后組の所得船腹倍切トシ積込の中心積荷 = 年中最近期年間 = 控々運貨 / 割后組の所得船腹倍切トシ積込の中心積荷 = 年中最近期年間 = 控々運貨 / 割后組の所得船腹倍切トシ積込の中心積荷

X 海産物 (但し凍結の輸出は海産物に非ず)

横濱東京の上海間、航路 = 控々運貨割后

肥料 (人造肥料、有機肥料、陸産肥料)

横濱東京の各需要地 = 控々運貨割后

石糖 (香港の東部及東京の各需要地 = 控々運貨割后)

高等商業学校本科三年

奈良元表

生等殆^レ辨^ル辭^ナ不能^ク詠^ハ商^ノ生等^ノ甘^ル處^ニ唯^ニ教授^ノ園^ニ
ノ高^ク覽^ク乞^フ爲^ス函^未調^査ノ真^ニ相^ヲ際^ス下^ニ函^云